

毎日歌壇

加藤 治郎 選

最後まで聞こえなかった サンダルを履いた足から透けて「さような 雲南市 熱田 俊月
 △評△その人はこの世界から去ってゆく。足から体が透けてゆくのだ。幻想的な作品だがサンダルにリアリティーがある。

雨の香をまとったきみと抱きあってわたしのうちに産まれる海は 兵庫 廣澤 真希

△評△愛の歌である。きみの雨の香が私に豊かな海をもたらした。美しい展開である。

玉子焼さるるるるる返りさせて焼く寝ぐせのついた玉子焼き 仙台市 石川 初子

労働は全て肉体人間を隅から隅まできれいに使って 横浜市 砂月 七

顔して君に伝える 名古屋市 外山 雪

夜が青いのはかなしみが溶けているからかな 君の髪を手で梳く 名古屋市 森本 有

(中年少女)って悲しく君に歌いたい、だけとあなたを後ろから抱く 直方市 大石 聡美

動物園を歩き疲れて見るタペランの明りの中の西行 柏原市 類家 有二

米、古米、古古米、古古古米だって古古古古米もみんな頑張り 東京 稲山 博司

娘らと手足のばしてひるねしたたみの夏よみどりの夏よ 東京 青木 公正

水原 紫苑 選

ねえあなた誰なの？ 花びら一片では花の素性がわからないもの 甲府市 村田 一広

△評△花びらは永遠に答えない。花の素性は人の素性よりも謎が深い、花は決して狂わない。

ツバメというたいへん華奢な矢印が夏の気流に乗っていました 枚方市 久保 哲也

△評△童話のような語りの文体の面白さがそのまますばめの矢印になっている。

迷子たちがねむりの島へ着くまでの永遠を硝子のカルーセル 加古川市 石村 まい

冷凍みかん投げ祭りが催されそうな狂気の街を抜け出してゆく 千葉市 深海 泰史

うさぎ肉は禁忌とされた月世界 学食カレーに人参ばかり 横浜市 砂月 七

それが正しい終わり方なら人生はハイドンの告別のよう 名古屋市 よだか

よつこそと現るフタバズキリュウ博物館の海を泳いで 倉敷市 中路 修平

落涙の永久機関に成り果ててわたしの片恋は海霧のなか 千葉市 星野 珠青

思い出のなかはいつでも逆光でああ犬に手が届かない 千葉市 芍 葉

夜ごとに私に旅を唆すツグミの顔した夢の女神よ 東京 河野多香子

伊藤 一彦 選

ブラウスに跳ねたケチャップが相棒の様相となるひとり残業 武蔵野市 北谷 雪

△評△上の句の具体的な表現がいきっている。そして跳ねたケチャップを「相棒」と呼んで孤独な残業をうかひあがらせている。

シャーペンの音は静かに鉛筆は引き出して見るランドセルの夢 宮崎 門田 藍子

△評△小学生の時の鉛筆が「ランドセルの夢」を見ると発想が優しくかつ面白い。

私とはまるでタイプが違うのに分り合えると思わせる人 仙台市 五十嵐 舞

公園のトイレの中にツバメの巣ヒナと目が合う便座の上で 相模原市 榎本 ハナ

衣擦れの音うつくとき映画見て今日はテレビもラジオもつけず 横浜市 谷口 菜月

頭には数え切れない言葉たち宛先のない手紙が増える 川崎市 水 面

慈しむように葉に日付書く丸くなりゆく母の背中 兵庫 廣澤 真希

配慮してヘッドホンする君のそばで音が静かに感じる拒絶 奈良市 久保 祐子

澄まし汁の肝を掬って口のなか命を食みて日日生きている 狭山市 りんか

濃紺のブルーベリーを収穫し手形のやうに指紋を残す 延岡市 河野 正

米川千嘉子 選

五町歩を担う八十六の義父働き方は人に委ねず 新発田市 飯田 英範

△評△「働き方改革」がさまざまに言われる時代だが、義父の思いは。約50年、東京ドーム以上の面積の農地だ。

これは正しい「さよなら」なんだとわかるからあなたの背は見ないで送る 三重 中山由賀子

△評△お互いにとっての必然であり、必要なのだと。それでも寂しいだろう。

捕る人の熱量もまた味になる シェフはさう言ひ蛸を捌きぬ 新潟市 斎藤 斌

ムーミン谷は住みやすそうだが政治家という職業が要らず平和で 静岡市 柴田 和彦

古日記めくればふふ懐かしい良妻賢母らしきがチラリ 春日市 林田 久子

いないいないばあとカーテン押し開けてふて寝のわれをあやすそ風 四日市市 早川 和博

散歩行くとび幼子や容赦なく地球に投げつける夏帽子 須崎市 野中 泰佑

一粒のブルーベリーに我が指紋残れば罪の思ひ当たれり 延岡市 河野 正

湿原を鹿の害より守るとぞ一山ネットを巡らせてあり 鶴岡市 大沼 葉子

休耕田に米を作れと夢に出る桑山子田植えの格好をする 下関市 富本 均

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係。ネット投稿は右のQRコードから。

戦後80年「平和」の作品募集

戦後80年にちなみ、戦争や平和について詠んだ短歌と俳句を募集します。通常の投稿で受け付けます(希望選者を指定、特に係はありません)。締め切りは7月25日(必着)。入選作は8月11日の本欄で掲載します。



こちらから
投稿できます